

知人・友人各位

明けましておめでとうございます。西暦2000年のスタートに当たり、切り良くアマダイ通信の20号を送って年始の挨拶にかえさせていただきます。

毎回、こんな偏頗なものを勝手に送りつけてと自責の念を覚えつつも年に3~4回、5百部ほどからスタートして、今回は千5百部も刷ることになりました。初めて手にされて不快に思われる方もいるかと思えます。そんな時はそのまま屑籠に入れて下さい。下手な政治家の年賀状より多いかも知れないと感心？していると、「幕張通信」をEメールで送る団塊政策研究ネットワーク（以下団塊ネット）世話人の荒岡君からは「郵送料だって馬鹿にならないじゃないか」と水を差されます。果たして郵便局を遊び場にして育った「郵便局のカクちゃん」は、今年こそワープロをパソコンに変え、郵メールからEメールに進化することができるでしょうか。今年も宜しくお願い致します。

◎甘鯛のお年玉送ります

アマダイ通信を年賀状に代えるとお年玉の楽しみを奪うことになります。そこで私設のお年玉を作ってみました。封筒に打ってある番号の下2桁が26番の方には故郷秋田の漁協に頼んで特別に作ってもらった甘鯛（Tile Fish。関西ではグチ）の一夜干（一匹）入りの特製一夜干セットを送らせていただきます。毛沢東と同じ12月26日に生まれたことに運命的なものを感じ、日本の毛沢東たらんと学生運動を始めた?!その日を今年の当選番号とさせていただきます。

干場はグチに似ている。甘鯛の一夜干しは銀座干しともいい高級品だと東大三鷹寮の先輩に言われ、その気になって会社の名前（TF Network）にもしてしまい、客先で仕事の中身を説明するのに四苦八苦、名刺の裏にプロフィールを刷る羽目に。もっとわかりやすい名前にすればよかったと反省していますが、今回はどうしても頼んで甘鯛を入れてもらいました。ツミレは鍋かおつゆに、ハタハタとカレイ（各五匹）は焼き過ぎに気をつけて下さい。かつては海が荒れて食べる魚がない時に仕方なく食卓に上ったホッケ（三匹）も、今や出世して全国どこの居酒屋でも人気のメニューになってしまいました。

まずい物を送ってはいけないと我が家で先に取り寄せたのですが、毎晩忘年会と称して家で食事しない間に全部カミさんに食べられてしまいました。その代りこの道一筋25年間栄養士を続ける味のプロが太鼓判を押してくれました。もっとも、甘鯛とカレイを一緒に焼いてカレイをカーリカリにってしまったようですが。結局甘鯛は私の口には入らず、抗議したところ、「毎晩外でうまい物食べ歩いて。それに共食いになるでしょ、食べてやったのよ。」と軽くいなされてしまいました。

因みにこのセットで2千5百円（送料別）。「ホシバクンの甘鯛入り特製一夜干セット」を味わってみようという読者は「八森海鮮紀行」（☎0185-77-3785 FAX0185-77-3387）まで。

◎君はドアノッカー

独立して情報仲介業を始めて3年近く。何をしているのと聞かれても仲々一言で答えられません。人によってはフィクサーとかロビイストと言ってくれます。フィクサーという

と児玉誉志夫の醜い顔が浮かびますが、私はそんな大物でもないし悪でもない。ロビイストというと国会や内閣に働きかけて政策を実現するのに奔走する姿を連想します。だが、若い頃過激に政治に走った後遺症か、政治への関心は大いであっても斜にしか関わっていません。元通産省基礎産業局長の清川東芝上席常務取締役(S36年東大三期生)からは「君のようなのを外資系ではドアノッカーと言うんだよ」と言われ、寮で同期の熊野野村証券監査役には「うちの業界ではコールオフィサーと言うんだよ」と言われました。いずれも私には初めて耳にする言葉。コールオフィサーもなんとなくわかりますが、オフィサーというよりもドアノッカーという方がぴったりするような気がします。情報を仲介してドアをノックして回るのは喜捨を求めて門先に立つ修行僧か、はたまた弦の切れたバイオリンを持って門づけするキリギリスのように見えないではありませんが。

今の社会ではいかに優れた商品やサービスを持っていても売り方を間違えたり、売り込み先がわからないのでは社会の役に立つことができません。そんな時に「甘鯛ネットワーク」が役立つようです。かつての学生運動や寮活動、東大三鷹クラブや団塊政策研究ネットワーク等の世話役活動の中で自ずと出来上がったネットワーク上のキーマン達が支えてくれます。ある人にとっては今なお依る道を求める修行途上の頼りなげな存在に見え、他の人には一人去り、二人去りして小さくなって行く祭りの輪の中で遅くまではしゃいでいたキリギリスに重なり、喜捨してくれるのかも知れません。

色々な方々の力に支えられ、「Tile Fish Network」も今年は3周目に入ります。クライアントもコンクリート製超高層ビル外壁の高橋カーテンウォールや音と映像の日本ビクター、土木資材のソイル工業、企画のメディアエンジニアリング、弱電商社の和光産業等に加え、新しくフドウ建研、ジェイコム等とコンサルタント契約を交わしました。フドウ建研は不動産の子会社で高橋カーテンウォールの隣の業界でコンクリート製の柱や梁、床等構造部材、プレハブマンションを製造施工する年商3百億円ほどの店頭公開企業です。ジェイコムはJTBの子会社でイベント等を企画します。フドウ建研とは岡田代表取締役副社長が団塊ネットの若山世話人の明治大学の学友ということで、ジェイコムとは桑田東京支局長が緑の地球ネットワークの高見事務局長と小中学の同級生ということで御縁ができました。他に提携交渉中の会社が幾つかあります。成功報酬制で営業を手伝ってくれという会社は沢山あるのですが、それでは私の方が一方的にリスクを負担することになるので、幾らか決まった活動費もいただいてリスクをシェアできる会社と提携するのを原則にしています。

当初餌不足を心配された甘鯛も、お陰様で網の中で飢えることなく泳げるようになりました。クライアントも少しずつ増え、網も拡がり、文字通りのワンマンカンパニーでは資料の整理や事務処理がうまく行かなくなりました。長いこと大橋先輩(S38年東大三期生)の関係するコンピューター図鑑等の教育ソフトとシステム開発のラティオインターナショナルの事務所に居候させていただきましたが、3周年の今年には自前の事務所を作り、パソコンと事務処理の得意なアシスタントを一人置いて、自分もパソコンを操りインターネットが出来るようにして効率を上げ、クライアントにもより満足していただくと共に、世話役活動にも役立つように出来ればと思っています。

◎路上観察学会「奥の細道」へ

路上観察学会と聞いて?と思う読者が殆どでしょうが、路上観察学会は86年に旗揚げ

され、98年から99年にかけてJR東海にメインスポンサーになっていただき東海道53次を路上観察しました。と来ると路上観察？と思われる方がほとんどでしょうが、街並みを「くらし」の視点から観察し、通常では景観と見なされない看板や廃屋、マンホール等を「見立て」によって楽しむ知的な遊びです。東海道路路上観察の成果は週刊文春や旅の手帖のグラビアを飾り、NHKの日曜美術館でも3回にわたり放映され、文春ビジュアル文庫で1冊の本になった時はJR西日本の京都駅ビルで写真展が開催されたので、ごらんになった方も多いかと思います。学会（似たような通称の団体があるので「学会」と発する度に不思議な感覚に囚われてしまいます）は赤瀬川原平（芥川賞作家、画家、「老人力」が大ベストセラー中）、藤森照信（東大教授、建築探偵。近代建築史の第一人者）、南伸坊（イラストライター、元漫画雑誌「ガロ」編集長。朝日新聞土曜夕刊に「シンボウの言い分」連載中）、林丈二（作家）、松田哲夫（編集者、筑摩書房常務取締役、TBS王様のブランチレギュラーコメンテーター）、杉浦日向子（江戸風俗研究家、NHKお江戸でござるコメンテーター）のそうそうたるメンバーで構成されます。

そんな文化的な活動になんでお前が？となると思いますが、学会の事務局をしているのが団塊ネット世話人にして出版企画会社「同文社」オーナーの前田和男氏。学会のメンバーが今度はここを歩きたいなどとなって実現の目途がつかないと、私の所に駆け込んで来ます。今では鼻髭も蓄え、堂々たるオーナー社長にして名編集者の彼ですが、かつては伝統ある一高新聞の後継紙たる駒場新聞の編集長として健筆を奮うと同時に、被ったヘルメットの色が違うとはいえ、共に腹を空かせながら短い足をフル回転させて、東の集会、西のデモと奔走した仲間。また金にならない仕事を持ち込んで来てと思っても断る訳には行きません。それに少年時代は山海を駆け巡り、学生時代は脳弱体強の肉体派を任じていた私は文化とか、文化人という言葉に縁が薄いので、彼の話しにのるとその匂いくらいはかけるのではないかというコンプレックスもあります。「華の東海道53次路上観察」（文春ビジュアル文庫、650円で発売中）出版の時も写真展を開きたいがということで、JR西日本の南谷社長（S35年秋三選入賞）に相談に上がり東海道53次の終着駅京都の、評判の新駅ビルで出版記念の大写真展を開催することができました。

今回も「奥の細道を歩きたいのだが・・・」と彼の鼻髭が揺れます。地図のゼンリンにスポンサーになってもらい季刊の地図雑誌ラパンで連載することになり、文芸春秋での連載と単行本の出版の目途もついているのだがメインスポンサーがいないという。建設省はどうだろうと伴顧問（前々事務次官、現都市基盤整備公団副総裁、S34年入寮）や橋本事務次官（現建設省顧問）の顔が思い浮かぶが、出来るだけ広く真っ直ぐな道を作って人と貨物を大量に、効率良く運ぶのがこれまでの建設省の道路行政ではないか、路上から街並みをゆったりと観察して「見立て」によって楽しむ路上観察となじむかと二人で頭を抱える。しかし最近建設省も変わって来ている。現に河川では三面コンクリートの治水から出来るだけ自然に近い形での多自然型の護岸作りを心掛けるようになってきている。かつて街道には交流や賑わいの機能がかった。世の中は介護保険制度で大騒ぎだが、これからの高齢化社会では9割を占める介護の世話にならない元気な年寄りが大きな問題となる。彼等が仕事やボランティア活動を通じて社会貢献したり、長い余暇時間を楽しく過ごす仕組みが必要になる。歴史を学んだり、見立てを楽しんだりして交流しながらゆっくり歩く道も必要だ。これからの道路行政のもう一本の柱にならなければならない。こう理屈づけても現役次官の所にはなんとなく持ち込みにくい。二人で建設省に伴顧問を訪ねる。

我々の提案に「うちの若い者もこんな人間臭いものを勉強しなければいけない」と伴先輩。道路局の幹部につないでくれる。数回の打ち合わせを経て更に東北地建へ。田崎局長にも面会、道路公団東北支社の協力も得てようやく学会の面々も奥の細道に足を踏み入れる。費用がかさ張るからと渋る鼻髭君を商品の中身がわからなければ営業できない、これからは協力できないと脅して、野人の甘鯛も必死に悪乗り。当代一流の文化人と同宿、同じ風呂に入り、同じ物を食べ、同じトイレで脱糞し、たまには議論もするのだからと、高校時代に奥の細道の参考書とした萩原井泉水の「奥の細道ノート」を探し出してにわか勉強。理論武装し直して9月と11月にそれぞれ2泊3日で日光から尾花沢まで、学会の男性メンバー5人と芭蕉の足跡を辿る。成果のほどは文芸春秋の新春号と地図雑誌ラパンの冬号（いずれも販売中）と秋号で御覧下さい。それに何故か自治労の機関紙の最新版？で「俺が危ない」という看板と一緒に私の全身写真が載っています。きっとこれは鼻髭君の意趣返しに違いない！？

◎老人力「奥の細道」へ

路上観察学会の道行きには「奥の細道」沿線の建設省の工事事務所や道路公団の幹部にも忙しい仕事の合間を縫って同行していただき、撮影した作品の品評会には地建の田崎局長や道路公団の古道支社長にも参加していただく。その中で猪股建設省仙台工事事務所長がS47年入寮の三鷹寮の後輩だという思いがけない収穫。1年しかいなかったというが、41年から7年住んでいた私と最後の1年がダブルではないか。同じ屋根の下で同じ釜の飯を食べていたのである。さっそく年賀状をやりとりしているという名簿未記載の同期の寮生3人を紹介してもらおう。こんなハプニングもあって楽しく奥の細道を徘徊する。

奥の細道で芭蕉は福島、宮城、岩手、山形と歩いているが、秋田はわずかに象潟に1歩踏み込んだだけだ。松島と象潟が芭蕉にとって奥の細道の一番の見所であったとはいえ、その奥には足を踏み入れていない。俳諧をたしなむ人間が秋田にもいなかったわけではない。芭蕉を歓待できるほどの力を持つ旦那衆がいなかったわけでもない。多分俳界の新風であった蕉風を嗜み、芭蕉と一緒に句作を楽しもうと彼を招く人間がいなかったのであろう。伊賀上野を出奔して江戸に出て起こした蕉風であるが、象潟の先の秋田にまでは達していなかったのであろう。秋田新幹線こまちもできて私など隔月に一回くらい東京から往復しているが、かつて秋田と江戸は遠かったのである。

しかし芭蕉はいざ知らず、高速交通網が高度に発達した現代の路上観察学会の道行きから、奥の細道のその更に奥の道を外す訳には行かないではないか。地建の田崎局長に提案、3月に出羽の奥の細道を歩き終えた後、北陸地建管内の徘徊に移る前に奥の奥道を老人力の赤瀬川原平とその一統が路上観察することになる。五能線沿線出身の小生としては国道101号線、江戸時代に菅江真道が通った大間越し街道を歩くことも提案したのであるが、これは残念ながら採用されず。岩手、青森、秋田の奥州街道、羽州街道をそれぞれ2泊3日の旅程で走破することに。どんな見立てが飛び出すか、それを鼻髭君がどのようにして全国に発信してくれるか大いに楽しみである。秋田県や県内沿線の各市町村には是非ご協力をお願いしたい。

◎加藤紘一（自民党前幹事長）ミレニアム新年会

団塊政策研究ネットワークでは1月18日（火）、自民党前幹事長の加藤紘一氏を講師

に招き新春講演会・新年会「ミレニアムの政治課題と団塊世代の役割」を開催します。

日本は今、「失われた90年代」のまま二千年紀を迎えんとしています。公共投資依存の景気対策で国と地方の借金は増え続け、金融再生のための公的資金投入も健全な資金の流れを作り出すに至りません。リストラの進展で失業者は益々増えそうです。金融系列の空洞化もあり既存の枠組みを超えた企業の活動が活発になるなど、明るい兆しもありますが、政治をみると気分は暗転します。選挙対策政治が横行し、介護保険の見直しは現場に大きな混乱をもたらしました。そうした思惑の中で解散総選挙が迫ります。

団塊政策研究ネットワークは「我が子よ！われ人間のクズにあらず」を謳った「団塊の世代議員白書」の刊行を機に生まれました。団塊世代が自立しどれほど元気であり得るかが、いよいよ問われていると思います。こうした時期に世界の中の日本を語るわずかな政治家の一人であり、政界再編の目になっている加藤さんのお話を伺えるのは、大変意義深いことと思います。会員に限らず、お誘い合わせの上、多数ご参加下さい。

日時：1月18日（火） 18:00開場

場所：弘済会館 4F 千代田区麹町5-1

tel03-5276-0333

参加費：7000円（新年会費含む）

講演会 菊の間 18:15開演

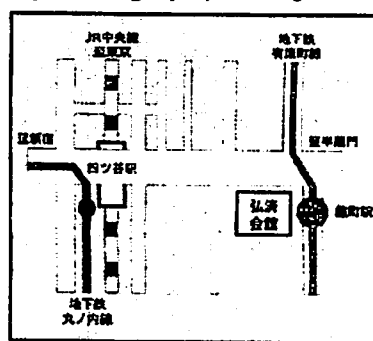
講師：加藤絃一

新年会 檜の間 1 19:00開宴

名刺交換・加藤さんも出席

*ご出席の方は1月11日までに連絡お願いいたします。

FAX 03-3234-9026 1月18日 出席します。ご氏名



JR四谷駅・丸の内線四谷駅・有楽町線麹町駅下車

◎共に黄色い大地を緑に！ 日中植林協力のこれから

昨年9月6日に行われた経団連の「日中植林協力フォーラム」第1回シンポジウム出席のために来日した、環境NPOの緑の地球ネットワークのカウンターパートナーである山西省大同市青年連合会主席の祁学峰さんを迎えて、翌7日夕、Dネットと緑の地球ネットワーク（高見邦雄事務局長）の共催で新宿のトーキングモンキーズで「日中植林協力の夕べ」を開催しました。

昨年もトモロコシやじゃがいも等の作物が水を必要とする時期に雨が全く降らないなど、年々水不足が深刻化し飲み水にも困る黄土高原の厳しい生態環境の下で日本のNGOが失敗を重ねながらも、地元の人々の理解を得て植林の輪が広まりつつあることが感動的に報告されました。それは植林面積の増大という量的面のみならず、苗圃や植物園の設置、単一樹種の植林から複数樹種の混植へ、在来の乾燥地に合った樹種の植樹へなど質的、技術的にも一步一步成果が現れています。又、井戸を掘ったり、就学支援のため小学校付属果樹園を作ったり、植林の労賃をプールして村人が小学校を建て替える、杏の実が収穫できるようになるなど農民の生活向上とつながる形で事業が行われていることが報告されました。貧困ゆえに森が失われた歴史的背景があり、農民の生活向上と結びつかないと緑化も根づかないので息の長い運動として行っているとのことでした。

最近の黄河の断流（途中で干上がり海まで水が流れつかない）や揚子江の洪水であらためてその共通要因としての森林破壊の深刻さ、緑化の重要性が認識され、中国政府も緑化に本腰を入れ始めました。そこで一昨年（2004年）の江沢民中国共産党首席訪日を期に経団連が「日中植林協力フォーラム」を作り、昨夏の小渕首相の訪中の際の手土産として百億円の日中植林基金（毎年十億円を中国での緑化事業に使う）が作られることになったのです。

しかしこれまでの政府の途上国開発援助が国民の生活向上に余り効果がないどころか、相手国の支配層が私腹を肥やしたり、環境を破壊する結果につながることも多かったことを考えれば、今回の百億円の日中植林基金がこれまで中国での植林の実績のあるNGOや自治体を通して使われるというのは政府の方針転換として歓迎できます。勿論、小渕首相のポケットマネーから百億円出る訳ではありませんし、政治家が中心になって一つのプロジェクトを立ち上げると、往々にして関わった政治家が自分の権益として上前を撥ねようとし、納税者としてはしっかり監視する必要があります。

尚、緑の地球ネットワークの連絡先は以下の通りです。

〒552-0012 大阪市港区市岡元町3-9-16 TEL06-6583-1739 FAX06-6583-1739

◎局長はつらいよ

前号で田舎の郵便局の局長になると違って、霞が関の局長になるのが難しいことに触れましたが、昨夏の人事異動でようやく経済企画庁の牛島俊一郎君が三鷹寮の同期生では初めて局長に就任する。1年上の40年入寮組からは厚生省の中西医薬安全局長、農水省の竹村経済局長がこの夏それぞれ官房長に就任、事務次官への道を突き進んでいることを考えると、40年入寮生が2百人と41年入寮組の2倍いることを考慮しても少し寂しい感じもします。元労働省局長の平賀三鷹クラブ代表によると、大学卒業の年が景気が良い年だったので民間にいい人材が行ったんだよとのことなのですが、まだまだ皆頑張っているようです。

競争が激しくなかなかなれない霞が関の局長と違って田舎の郵便局長は、国家試験に受かって郵便局に入れば親の後を継いで局長になることができ、不始末がなければ定年まで局長でいれるので気楽な稼業のように見えます。ところが郵便貯金や簡易保険の目標数字、いわゆるノルマがあったりしてなかなかこれが大変なのです。民間の営業会社では当たり前前で、ボーナスの額や昇進・昇給に影響してくる訳ですが、国営企業でも同じなのです。田舎へ帰るとよく郵便局長の兄が夜鞆を持って営業にでかけるのをみかけます。だから田舎を出た兄弟でも貯金や保険に入る時はわざわざ実家の郵便局ですということになります。

昨年春、仕事のついでに田舎に立ち寄った時にアマダイ通信が話題になり、幹部以上郵送しているよという、兄が自分の郵便局から切手を買ってくれと真顔で言います。切手にも目標数字があるというのです。本郷郵便局の切手も岩館郵便局の切手も同じ一枚の切手なので弟の私に異存はありませんが驚きました。切手にもノルマがあるというのは初耳だったからです。確かに郵便局の民営化論議、宅急便等の民間との競合、経営状況からすると、郵便も黒字を維持しなければいけないのは理解できます。それで結構厳しい数字があって、自腹を切って買ってチケットショップで換金する郵便局長もいるというのです。本郷のチケットショップでも5%引きくらいで切手が買えますが、田舎では大部値崩れしているようで、買ってもらうのは2割引くらいなのでしょう。2割分だけ減給されるのと同じですが、マイナス評価されるよりはマシということなのでしょう。そういう訳でこのアマダイ通信も田舎の郵便局の切手を別納してあなたのお手元に届きます。

◎アワビよりタコが賢い

昨夏田舎でアワビを手掴みで採ったことを前号で報告しましたが、これで味をしめた？

か昔やったタコ付けを急にやってみたくなりました。田舎では秋になるとタコが浅瀬の岩場にやって来てカニや貝を漁ります。そこで先の方にアワビの貝やカニの甲羅をくくりつけ、赤い布をその上から巻き付けた竹竿で岩陰を突っ突いてやると、餌と勘違いしてタコがその上に乗っかかってきます。そのタコを鉤で引っ掛けて取る漁法です。時々竹竿の先ではなくゴム草履をはいて海中に突っ立っている足にまとわりついて来て掴まるタコもいて笑ってしまいます。

十月半ばに秋田に出張したついでに八森に立ち寄り、夏食べたのを捨てるんじゃなかったとやっと海岸でアワビの貝を探し、慣れない手付きで道具を作って朝と夕方2度挑戦したのですが、タコの影すら見えません。アワビは道具なしで手掴みで採れたのに、タコはシッカリ道具まで用意しても空振りです。アワビよりタコの方が賢いようです。

タコが駄目なら茸でもと兄夫婦と一緒に持ち山に茸狩りにでかけたのですが、これも駄目です。暖かすぎてまだ茸が出て来ないようです。沢筋には土砂に埋まって役に立たなくなった砂防ダムが幾つも続きます。ダムの墓場のようなものです。税金でこんな無駄なものを作ると腹が立ちます。タコも駄目、茸も駄目でよけい腹が立ったようです。

◎サンプラザに寮歌響く

恒例になった自治委員会交替後の新旧寮委員とOB会との交流会ですが、6月の委員会交替後直ぐ寮祭があったので、10月15日に中野サンプラザのパーティールームで開催。今回の現役寮生の参加者は前委員長の西浦智幸（府立天王寺高校、文科Ⅱ類、経済学部進学予定、98年入寮）、新委員長の砂田真紀（兵庫・三木学園白陵高校、文科Ⅰ類、98年入寮）兩名を筆頭に、堀江豪（熊本高校、理学部卒、理科Ⅲ類再入学、99年入寮）、山本篤（広島大学付属高校、教養学部広域科学科広域システム分科4年、95年・98年入寮）、津田量（甲陵高校、文科Ⅲ類、99年入寮）、青木陽子（延岡学園、文科Ⅰ類、99年入寮）、福田高久（富山高校、文科Ⅰ類、99年入寮）、三野功晴（六甲高校、教養学部卒、総合文化研究科から新領域創世科学研究科再入学、96年・98年入寮）、力丸健太郎（県立福岡高校、理科Ⅰ類、薬学部進学予定、98年入寮）、山崎智幸（長野県立上田高校、97年理科Ⅰ類入学、教養学部基礎化学科3年）、浜田恵美（鹿児島県川内市黎明高校、理科Ⅰ類、99年入寮）、趙磊氷（上海嘉定第一高校、文科Ⅰ類、99年入寮）といつもより沢山参加して大いに盛り上がる。山本君や三野君のように2回も入寮する様な将来の同窓会の世話人候補もいる。

気を良くしたOB連は肩を組んで寮歌「新聖（ニイハリ）の」を披露。意外と現役生にも受けたのに味をしめ、12月18日（土）のこれも恒例となった三鷹寮での「三鷹市民と留学生の交流の集い」でも壇上に上がり、大声を張り上げる。

12月に委員会の交替があり、堀江君が新委員長に選出されたました。次回の交流会は1月14日（金）6時半より中野サンプラザ地階のパーティールーム「粥」で行います。世話人意外のOBの方でも興味のある方はご参加下さい。

◎金融危機を振り返って

1月26日（水）の第29回三鷹クラブ定例講演会は田波耕治大蔵省顧問（前事務次官、S34年入寮）に登場してもらいます。金融危機と官庁再編の難局で、大蔵不祥事を受け異例の登板となった田波次官ですが、任期中を振り返ってもらい、緊急事態はどうか脱

したとはいえまだ続く金融危機と日本経済のこれからについて語っていただきます。会場はいつもの通り神田の学士会館で6時開場、6時半開会、食事・飲み物付きで会費5千円。

金融危機回避の主役のもう一人であった柳澤伯夫前金融再生担当相（S32年入寮）にも、政局が安定し次第話していただくことになっています。

◎第30回は大阪で

第30回三鷹クラブ定例講演会は3月13日（月）に大阪のJR弥生会館で行います。講師は森浩世大阪大学名誉教授（S27年入寮）です。専門は内科で、代謝や糖尿、臓器移植の権威です。

◎開寮50周年…留学生支援、名簿、人材バンク

今年三鷹寮の開寮50周年にあたります。この半世紀の変化の早さを思うと更に半世紀後、この地球がどうなっているのか、とても予想などできません。ただこのまま人口が増え続け、物質的な生活レベルもこのまま推移するとすれば、破局はまぬがれないでしょう。それを救うのは循環型の経済システムの確立と途上国の教育水準の向上による人口増加の抑制でしょう。先進国の経済の流れが資源循環型に向かいつつあるように見えるのは多少の救いです。それにしても、隣国中国がどうなるのか。それが鍵を握ると思います。

本郷に事務所があると、三鷹寮で知り合った学生とよく出会います。ハルピン医科大を卒業して東大の大学院に留学し、日本の医療機器メーカーに就職が決まっている汪治一君ともよく会うので、一杯やろうということになりました。清華大学から留学している劉君も誘い、来日十年でソフト会社を経営し上海にも会社を持つ団塊ネット会員の魏さんも交え、汪君のリクエストでどじょう鍋を囲む。経済の発展した地域から来ている彼等は昨年私が2度植林に行った12億の人口の7割以上を占める、内陸の貧困地帯については何も知りません。これでよく中国が一つの国家でいれるなと思います。日本にいることで彼等に見えてくることも沢山あると思います。

そういう意味で三鷹寮が国際学生宿舎として発展して行くのは素晴らしいことです。そろそろ新棟の予算もつきそうですが、映像施設や舞台も備えた大ホール、図書室、飲食施設も備えたラウンジなど国際交流の場にふさわしい施設を早く完成して欲しいと思います。三鷹クラブも開寮50周年、結成5周年ということで新しい名簿を作成しますが、その過程で大学の教職員が進めている留学生支援の基金に呼応し、基金への参加をOBに広く呼び掛けようと思います。

又、働く意欲を持ちながらそろそろ完全にリタイアする会員の方も多く出て来ています。それぞれに素晴らしい知識や経験、技術やネットワークを持った先輩達です。それぞれの持てるものを持ち寄りデータベース化して有機的に結びつけば、社会にも貢献できお互いハッピーになれるのではないのでしょうか。有利な条件を備えた三鷹クラブの人材バンクができれば、団塊世代が大量に社会に投げ出された時の雛形作りにも役立つのではないかなどと考えたりします。

三鷹クラブで、団塊ネットで、緑の地球ネットワークで、路上観察学会で、そしてできれば能代山本フォーラム21でも今年も沢山の出会いと交流が行われ、ティエフネットワークが多くの方々の力に支えられ、多くの方々の力となることを期待し、皆様のご多幸を祈念して新春の長〜い挨拶を終わらせていただきます。